新春座談会

昭和から何を学ぶか

未来につなげるために

昭和天皇が生きた時代　実録をもとに

京都大法学研究科　伊藤 之雄 教授
京都大人文科学研究所　山室 信一 所長
公益財団法人・冷泉家時雨亭文庫　冷泉 貴実子 常務理事

政治への関与 常に迷い
記録の歴史へ 転換の時
不自由な立場 気の毒に

伊藤　山室　冷泉

いとう・ゆきお　1952年福井県大野市生まれ。94年から現職。専門は日本政治外交史。京都市市政史編さん委員会代表。著書に「昭和天皇伝」「昭和天皇と立憲君主制の崩壊」など。

―昭和天皇実録が公開されて実像が鮮明になった。

伊藤　実録を読み終え、昭和天皇は生涯にわたって思想にぶれがない人物だとあらためて実感した。大正デモクラシー期に英米との国際協調という思想を発展させていくが、満州事変前後から独走する軍部を十分に制御できずに苦しんだ。

山室　私が昭和天皇に持っていた印象とは、かなり違った。実録は平和を愛する天皇のストーリーとして描かれ、それにそぐわない部分は省かれている。確かに、20世紀という激流の中で一貫している部分もあるが、一人の人物が少しずつ成長を遂げていくという教養小説的な読み方もできる。平成に入って四半世紀を超え、日本人の30%が30代以下の人たちで占められる。昭和天皇を知らない世代が増え、記憶の歴史から記録の歴史に変わる時期に来ていることを痛感する。

冷泉　私自身は戦後生まれで、民主主義時代に育った。天皇に関心を持っていたわけではない。しかし歴史上、冷泉家は侍従長などを歴任した入江家と深い関係がある。大正天皇の侍従次長だった入江為守氏（1868～1936年）は冷泉家に生まれた。入江家の跡継ぎがなく、冷泉家から入江家の養子に入った人だ。そして、為守氏の息子入江相政氏（1905～85年）は昭和天皇の侍従長。戦前生まれの両親は昭和天皇に親しみがあったが、団塊の世代である私にすれば、遠いおお方と言うか、歴史上の人物です。

―第1次世界大戦を終え、1920年代に平和と国際協調の時代を迎えた。半年に及ぶ皇太子時代の欧州訪問（21年）は、その後に大きな影響を与えた。

山室　第1次大戦の激戦地を巡り、戦争の悲惨さを実感し、平和を求めることが使命であると強く思う根源になった。そういう姿が逆に、大元帥としての天皇をひ弱とする見方が軍部から生まれる要因にもなる。大日本帝国憲法はプロイセン（ドイツ）型だったが、ドイツは大戦の敗者であり、イギリスとフランスが勝者だった。ドイツのような皇帝制では敗亡に至りかねないとの危惧を抱き、いずれはイギリス型の立憲君主制に移らざるを得ないと思うようになった。ただ、ここに不幸があった。ドイツ型憲法の枠組の下、イギリス型を追求するという矛盾があったからだ。

伊藤　確かに伊藤博文らがつくった旧憲法はドイツ風だったが、明治時代には藩閥の対立があり、国をまとめるには天皇が国を統治するという形式が必要だった面は見逃せない。しかし事実としては、天皇は政治関与を極力抑制することを伊藤らに期待されており、天皇もよく理解していた。究極的には天皇が政治に関与しなくてもよくなり、総理大臣が国全体を制御し、議会の力を徐々に高める構想があった。伊藤から原敬へと移っていく中、理想の国家に近づく過程を、昭和天皇は皇太子時代に体験した。

山室　しかし、第1次大戦後の世界の激変について、日本の陸海軍は明確に理解していなかった。国際連盟の下で軍の存続理由が無くなる中、より存在感を示そうと膨張主義に陥ってしまう。それと意外だったのが、治安維持法の改正に天皇が強く反対していた点だ。思想を締め付けることに対して、非常に強い違和感を持っていたと思う。

伊藤　ご指摘の通り、国際協調の流れはあった。一方で経済競争が激化し、国家の生存をかけた戦いに危機感が1920年代生え、世界恐慌を引になる。それを引陸軍であり右翼だ天皇にとって、軍う抑えるかが一番た。

―英米との国際した昭和天皇だっ30年代から日本を歩んでいく。

伊藤　張作霖爆9928年）をめぐの昭和天皇は大きしてしまう。陸軍義一首相が誠実に腹芸で乗り切ろう真面目な昭和天皇そんな態度が許せ会わないと発言し事実上の罷免だっ前例がない出来事えって軍部から反後に天皇は反省し一つの転換点にな まで天皇は政府し、駄目だとは公かった。

山室　私は少し持つ。旧憲法では立が認められ、軍責任はやはり天皇田中の罷免は転換ないが、そのまま わけではなく、幾

やまむろ・しんいち　1951年熊本市生まれ。専門は法政思想連鎖史。2013年から現職。著書に「キメラ―満洲国の肖像」「思想課題としてのアジア」「憲法9条の思想水脈」など。

天皇家の系図（敬称略）

- 大正天皇（嘉仁）＝貞明皇后（節子）
  - 昭和天皇（裕仁）＝香淳皇后（良子）
  - 秩父宮（雍仁）
  - 高松宮（宣仁）
  - 三笠宮（崇仁）

政治への関与 常に迷い

記録の歴史へ 転換の時

不自由な立場 気の毒に

伊藤 山室 冷泉

やまむろ・しんいち　1951年熊本市生まれ。専門は法政思想連鎖史。2013年から現職。著書に「キメラ―満洲国の肖像」「思想課題としてのアジア」「憲法9条の思想水脈」など。

いとう・ゆきお　1952年福井県大野市生まれ。94年から現職。専門は日本政治外交史。京都市市政史編さん委員会代表。著書に「昭和天皇伝」「昭和天皇と立憲君主制の崩壊」など。

天皇に関心を持っていたではない。しかし歴史上、家は侍従長などを歴任し江家と深い関係がある。天皇の侍従次長だった入守氏（1868～193）は冷泉家に生まれた。家の跡継ぎがなく、冷泉ら入江家の養子に入った。そして、為守氏の息子相政氏（1905～85は昭和天皇の侍従長。戦まれの両親は昭和天皇にがあったが、団塊の世ある私にすれば、遠いお言うか、歴史上の人物で第1次世界大戦を終え、20年代に平和と国際協時代を迎えた。半年に及今子時代の欧州訪問（21は、その後に大きな影響た。

室　第1次大戦の激戦地り、戦争の悲惨さを実感し、平和を求めることが使命であると強く思う根源になった。そういう姿が逆に、大元帥としての天皇をひ弱とする見方が軍部から生まれる要因にもなる。大日本帝国憲法はプロイセン（ドイツ）型だったが、ドイツは大戦の敗者であり、イギリスとフランスが勝者だった。ドイツのような皇帝制では敗亡に至りかねないとの危惧を抱き、いずれはイギリス型の立憲君主制に移らざるを得ないと思うようになった。ただ、ここに不幸があった。ドイツ型憲法の枠組の下、イギリス型を追求するという矛盾があったからだ。

伊藤　確かに伊藤博文らがつくった旧憲法はドイツ風だったが、明治時代には藩閥の対立があり、国をまとめるには天皇が国を統治するという形式が必要だった面は見逃せない。しかし事実としては、天皇は政治関与を極力抑制することを伊藤らに期待されており、天皇もよく理解していた。究極的には天皇が政治に関与しなくてもよくなり、総理大臣が国全体を制御し、議会の力を徐々に高める構想があった。伊藤から原敬へと移っていく中、理想の国家に近づく過程を、昭和天皇は皇太子時代に体験した。

山室　しかし、第1次大戦後の世界の激変について、日本の陸海軍は明確に理解していなかった。国際連盟の下で軍の存続理由が無くなる中、より存在感を示そうと膨張主義に陥ってしまう。それと意外だったのが、治安維持法の改正に天皇が強く反対していた点だ。思想を締め付けることに対して、非常に強い違和感を持っていたと思う。

伊藤　ご指摘の通り、国際協調の流れはあった。一方で経済競争が激化し、国家の生存をかけた戦いになるという危機感が1920年代から芽生え、世界恐慌を経て現実的になる。それを引っ張るのが陸軍であり右翼だった。昭和天皇にとって、軍や右翼をどう抑えるかが一番の関心だった。

―英米との国際協調を重視した昭和天皇だったが、1930年代から日本は戦争の道を歩んでいく。

伊藤　張作霖爆殺事件（1928年）をめぐり、若き日の昭和天皇は大きな過ちを犯してしまう。陸軍出身の田中義一首相が誠実に上奏せず、腹芸で乗り切ろうとした。生真面目な昭和天皇にとって、そんな態度が許せず、田中に会わないと発言してしまう。事実上の罷免だった。これは前例がない出来事であり、かえって軍部から反発を招く。後に天皇は反省しているが、一つの転換点になった。それまで天皇は政府の政策に対し、駄目だとは公然と言わなかった。

山室　私は少し違う印象を持つ。旧憲法では統帥権の独立が認められ、軍部に対する責任はやはり天皇にあった。田中の罷免は転換点かもしれないが、そのまま突き進んだわけではなく、幾度も選択肢はあったはずだ。例えば、満州事変（1931年）や張鼓峰事件（38年）では、昭和天皇は自分の感情で状況判断を行い、反対の意思表示をしている。天皇なりの試行錯誤を重ねていたのだろう。

伊藤　田中罷免の経験から、昭和天皇はどこまで政治関与したらよいか常に迷っていた。軍部を抑えたいが、抑えられない。明治時代のように陸軍を抑えられる山県有朋のような元老がいない。天皇は満州事変の時に悩んでいたのに実録では書かれていない。日米開戦に至った時、昭和天皇は直感的に負けると思った。でも戦争を止められなかった。短期決戦で勝ち、早く講和に持ち込み、犠牲を少なくしたいとかすかな望みを抱いていた。

山室　ただ昭和天皇は初戦で勝ったことを明らかに喜んでいる。負けが込んでくると、無条件か有条件かという選択になり、どこでどう見極めるかが難しくなった。ミッドウェー海戦、ガダルカナルの戦いなど、転機はあったのに、陸軍が戦意を喪失するまで戦争をやめられなかった。大本営の発表は虚偽を重ねていったが、天皇は短波放送を通じて、ポツダム宣

1947年5月3日、皇居前の新憲法施行記念式典で、万歳に応える昭和天皇

天皇家の系図（敬称略）

- 大正天皇（嘉仁）＝貞明皇后（節子）
  - 昭和天皇（裕仁）＝香淳皇后（良子）
    - 成子
    - 祐子
    - 和子
    - 厚子
    - 天皇（明仁）＝皇后（美智子）
      - 皇太子（徳仁）
      - 秋篠宮（文仁）
      - 黒田清子
  - 秩父宮（雍仁）
  - 高松宮（宣仁）
  - 三笠宮（崇仁）
  - 常陸宮（正仁）
  - 貴子

謹賀新年
平成二十七年
伝統に輝く！京の老舗
親から子へ、子から孫へと、いつの時代にも
時流を敏感に察知して、創意工夫を重ねながら
お客様に支持され続けてきた店、老舗。
本年も相変わらずご愛顧のほどお願い申し上げます。
京つけもの・みそ　田
出町
京・河原町
電話
FAX
電池替えから修理のエキスパート
時計 宝飾
創業明治二十二
株式会社 藤
本店／東山八
東大谷店（向山
各宗　総合設計・
京仏壇 仏具 栄
京都市下京区新川通
電
F
京石塔・石工事
京都市下
電話
FAX
株式会社 買
本店　京都市右京区
TEL
FAX
加茂川育ちの
「京の老舗」表彰
加
京都市下
電話
FAX
京都府知事許可（26）0
北
本店／京・左京区東大路
八瀬店・大原店・市原店
カバン・袋物
一澤
京・
電話
芽出鯛　鱧魚類
御蒲鉾司
各本山御用達
小野
〒604-8045
京・
電
FAX

五味康祐＝原作

新春座談会

平和な社会を求めて

今年で日本の敗戦から70年を迎える。過去から何を学び、何を未来への教訓とするのか、を問いかけようと、昭和天皇実録の公開を機に、昭和史の研究で知られる伊藤之雄・京都大法学研究科教授に昨年、文化面に「昭和と天皇」を計12回連載してもらった。この企画を通して平和を求めつつ、戦争の道を歩み、苦悩を続ける昭和天皇の実像があらためて浮き彫りになった中、伊藤教授と、東アジアという視点から戦前日本の研究を精力的に進める京都大人文科学研究所の山室信一所長、皇室とゆかりが深い公益財団法人・冷泉家時雨亭文庫の冷泉貴実子常務理事の3人に昭和という時代について語り合ってもらった。　（司会　文化部長・永澄憲史）

【昭和天皇の生きた時代】

1901年	裕仁親王（昭和天皇）誕生
1904～05年	日露戦争
1914～18年	第1次世界大戦
1920年	国際連盟発足
1923年	関東大震災
1931年	満州事変始まる
1932年	五・一五事件
1933年	日本が国際連盟脱退
1936年	二・二六事件
1937年	日中戦争始まる
1939年	ノモンハン事件
1941年	太平洋戦争始まる
1942年	ミッドウェー海戦
1943年	ガダルカナルから日本軍撤退
1945年	日本がポツダム宣言受諾
1946年	昭和天皇が人間宣言
1950～53年	朝鮮戦争
1951年	サンフランシスコ講和条約
1956年	日ソ共同宣言
	日本が国際連合に加盟
1964年	東京オリンピック開催
1965年	日韓基本条約
1970年	大阪で日本万国博覧会
1972年	沖縄返還
	日中国交正常化
1973年	オイルショック
1978年	日中平和友好条約
1985年	日航ジャンボ機墜落事故
1989年	昭和天皇崩御（87歳）

れいぜい・きみこ　1947年京都市生まれ。冷泉家24代当主冷泉為任氏の長女で、25代当主冷泉為人氏の妻。著書に「花もみち―冷泉家と京都」「冷泉家八〇〇年の『守る力』」など。

天皇を通して、昭和を振り返る伊藤之雄氏（左）、冷泉貴実子氏（中央）、山室信一氏（京都市中京区・京都新聞社）＝撮影・梶田茂樹

確たる将来像と理念持て　伊藤

天皇の政治的利用間違い　山室

文化的な存在として京に　冷泉

言を受諾しても国体は護持されると判断したと思われる。退位するかもしれないが、天皇制は残ると理解していた。

―正義を掲げるだけでは戦争を防げない。昭和天皇の歩みから何を学ぶべきか。

伊藤　まずは確たる将来像と理念を持つべきではないか。昭和天皇の理念は立派だったが、周囲に経験豊富な側近がいなかった。本来ならば、全体をなだめながら良い方向に導くべきだったのに、人との関係を切るようなかたちで事を進めてしまう。正しい理念をどう実現するかは難しい。今の日本と中国のように、お互いの国が正しいと主張し合えば、最後は戦争しかない。最悪の事態を避けるにはどうしたらよいのか。どういう選択の余地があるのか。よく考えるべきだ。

山室　明治憲法の責任な体制だったのは神聖不可侵で、責任を持たず、責任を取らない。期がうまくいけば、外交の力維新直前にはり、それこそ、その外交という時代だった。しかし日陸軍大学校を卒が軍中枢を占野に乏しい人その典型が東日本社会も同いるのではな

冷泉　詳細ないが、天皇うかと聞かれに、ものすご ある。誰も自所は選択でき の国にとって として自由が か。唯一、不 かれてきたの うに思う。お 話を聞いて感

―昭和天皇いてはどう思

山室　法的

1956年	日ソ共同宣言
	日本が国際連合に加盟
1964年	東京オリンピック開催
1965年	日韓基本条約
1970年	大阪で日本万国博覧会
1972年	沖縄返還
	日中国交正常化
1973年	オイルショック
1978年	日中平和友好条約
1985年	日航ジャンボ機墜落事故
1989年	昭和天皇崩御（87歳）

れいぜい・きみこ　1947年京都市生まれ。冷泉家24代当主冷泉為任氏の長女で、25代当主冷泉為人氏の妻。著書に「花もみち―冷泉家と京都」「冷泉家八〇〇年の『守る力』」など。

天皇を通して、昭和を振り返る伊藤之雄氏（左）、冷泉貴実子氏（中央）、山室信一氏（京都市中京区・京都新聞社）＝撮影・椹田茂樹

確たる将来像と理念持て　伊藤
天皇の政治的利用間違い　山室
文化的な存在として京に　冷泉

言を受諾しても国体は護持されると判断したと思われる。退位するかもしれないが、天皇制は残ると理解していた。

―正義を掲げるだけでは戦争を防げない。昭和天皇の歩みから何を学ぶべきか。

伊藤　まずは確たる将来像と理念を持つべきではないか。昭和天皇の理念は立派だったが、周囲に経験豊富な側近がいなかった。本来ならば、全体をなだめながら良い方向に導くべきだったのに、人との関係を切るようなかたちで事を進めてしまう。正しい理念をどう実現するかは難しい。今の日本と中国のように、お互いの国が正しいと主張し合えば、最後は戦争しかない。最悪の事態を避けるにはどうしたらよいのか。どういう選択の余地があるのか。よく考えるべきだ。

1946年２月19日の神奈川県を皮切りに「地方巡幸」が始まり、全国を巡回した。冷泉家と関係が深い入江相政氏は後方右側の男性

山室　明治憲法自体が無責任な体制だったと思う。天皇は神聖不可侵な存在であって、責任を持つべき人が責任を取らない。では、なぜ明治期がうまくいったのかと言えば、外交の力が大きい。明治維新直前には266藩があり、それこそが外交体制であり、その外交力によって明治という時代が作られていった。しかし日露戦争を経て、陸軍大学校を出た試験の秀才が軍中枢を占め、外交的な視野に乏しい人物が出てくる。その典型が東条英機だ。今の日本社会も同じ構造を抱えているのではないか。

冷泉　詳細な歴史は分からないが、天皇についてどう思うかと聞かれたら、責任以前に、ものすごく気の毒な面がある。誰も自分の生まれる場所は選択できない。今や、この国にとって最も重要な価値として自由があるのではないか。唯一、不自由な立場に置かれてきたのが天皇だったように思う。お二人の研究者の話を聞いて感じた。

―昭和天皇の戦争責任についてはどう思うか。

山室　法的責任と政治的責任と道義的責任はそれぞれ違う。そのレベルできちんと議論しなければならない。平和を望んでいたから天皇は無答責だということにはならないだろう。実録は天皇に責任が及ばないようにきれいに削ってある。実録は昭和天皇の実録であって、昭和史ではない。

伊藤　自分で今まで集めた資料と実録に出た資料から見ると、戦争を止められたかという意味での戦争責任はない。実録をめぐって出た評論や対談の中で、こういう資料があるのに隠している、実録は戦争責任を覆い隠しているといったことを、正面から具体的に言った人はいない。道義的責任はともかく、戦争責任はないというこれまでの私の主張は受け入れられたと考えている。

―未来への提言として、天皇制はどうあるべきか。

冷泉　政治的な存在ではなく、やはり天皇は文化的な存在ではないか。そして日本の象徴であり、日本文化の象徴であるとすれば、天皇は東京にいるよりも、京都にいらっしゃった方が歴史的に自然だろう。

山室　同感です。江戸時代には権力を持つ将軍が江戸に、権威がある天皇が京都にいて、絶妙なバランスを保っていた。しかし明治に入り、権力と権威を一元化した。京都は、文化的で平和の象徴としての天皇がいる地として、世界に発信すべきだ。天皇を政治的に利用するのは誤っている。

伊藤　私もそう思う。天皇は文化的な存在だ。できる限り大切にしたい。

昭和天皇の崩御から一夜明けた1989年１月８日早朝、あふれんばかりに記帳者の長い列ができた皇居前広場

座談会を受け、4日付文化面から連載「戦後70年を語る―天皇と日本の歩み」を始めます。

2015年4月、京都橘大学はさらに充実！

就業力と実践力が身につく
経営学科が誕生
企業経営コース、金融コース、公共経営（公務員・消防・警察官）コース、医療経営（医療事務・診療情報管理士）コース、グローバルビジネスコースの５コースで、就業力と実践力が身につく経営学を体系的に学びます。

実績に裏付けられた教育をさらに多くの人に
児童教育学科の入学定員が増加
高い採用実績を誇る児童教育学科の入学定員が20名増え、140名になります。同学科内に設置する保育士養成課程の定員も80名から100名に増加し、より多くの人の夢を応援します。

確かな学びと高い国家試験合格率

ハトヤ観光グループ　http://www.kyoto-hatoya.co.jp

いよいよ明日開演
花園会館20周年記念 新
都若丸劇団
都若

大衆演劇とお食事プラ
お食事と芝居・舞踊ショーがセットになっております。
花コース　3,500円
都コース　4,500円
昼の部　●11時30分～12時30分（芝居）●12時30分～13時15分（食事）●13時20分～14時20分（舞踊ショー）
夜の部　●18時00分～19時00分●19時00分～19時50分